

●令和5年度「税に関する作文」西宮市長賞受賞作文

【題名】「税金の大切さ。」

【学校名・学年】西宮市立学文中学校 3年

【氏名】井上 陽太

僕は最近、よくニュースで増税や物価上昇という言葉聞きます。周りの友達も「税金なんかいらん、なくしてほしい。」

と言っていました。そのときは、少し共感した自分もいました。税金の使い道について、着目しました。

自分の暮らしているところを見てもみんなから納められた大切なお金が使われているものばかりです。僕の祖父母は兵庫県の北部の一番はっこの海のある街に住んでいます。小さい頃から車で4時間かけて帰省していました。でも行くたびに少しずつ早く祖父母に会えるようになりました。それは僕の住む西宮から高速道路が毎年少しずつ少しずつ祖父母の住む街へ伸びていき、その分、早く到着するようになったのです。いつしか、今回はどこまで高速道路が出来ているか、家族の楽しみになりました。祖父母もとても喜んでくれていました。これは物流や救急など暮らしにかかせないライフラインにも関わる大切なものです。税金というとまだ中学生の僕から見ると難しく思っていました。自分の身近で便利さや変化を感じた事で税金という遠かったものも僕たちの暮らしをよりよくしてくれているものなんだと知るきっかけになりました。働いた大切なお金から税金を納めるという事にどうして？という疑問がぼんやりありましたが、家の前の道路も近くを流れる武庫川の河川整備も僕たちが幼い頃から使っていた大好きな公園も安心して歩いたり、遊べるのも皆の大切な税金があってこそ守られているのだと税について調べていくと理解する事が出来ました。

子供の僕には関係ないと思っていましたが、子供から大人まで、みんなの暮らしをより暮らし易いもの、安心して医療や教育を受けられて、みんなが同じように幸せに生きていける社会を創るためには必要な大切な財源なんだと今はわかりました。

今は両親が働いて納めてくれています。そして僕の周りのたくさんの方が納め合い、集めて社会を築いてくれています。

だからこそ、大切に公園や道路もきれいに使っていきたいと思います。

そして、もう一つは僕が大人になった時にちゃんと説明できるように税金について市政ニュースなどを読んで関心をもつことを心がけていこうと思います。

知る事は自分の事として考える大きなチャンスになりました。僕自身も支えられ、支えあえるような社会になってほしいと思います。

僕もいつか大人になったら、自分の為、社会の為に税金を納めていける気持ちを持って暮らしを作る一人として自覚を持って生きたいと思います。

次に祖父母の家へ帰省するときに、どこまで近くなっているだろうか、楽しみです。